



Title	乳幼児健診問診票に対する保健師の捉え方
Author(s)	小野木, 麻里; 伊藤, 美樹子; 三上, 洋
Citation	日本看護研究学会雑誌. 2006, 29(3), p. 192-192
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/52420
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

167) 乳幼児健診問診票に対する保健師の捉え方

小野木麻里, 伊藤美樹子, 三上 洋

(大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻)

【目的】

健やか親子21では、乳幼児健康診査は育児支援に重点を置くことが目標とされており、母子の個別ニーズのみならずその地域の母子の状況を把握する重要な機会となっている。そこで各自治体では効率的な情報収集ツールとしての問診票をどのように捉えて使用しているかを把握した。

【研究方法】

対象：2004年秋に全国3314の市町村の中から300市町村を無作為抽出し、倫理的配慮を紙面で説明後同意の得られた264市町村から乳幼児健康診査の問診票と保健師対象の質問紙等の資料を回収した。その内質問紙の「育児状況把握のしやすさ」で状況把握に役立つと回答し、その理由について記入のあるものと、「問診票の使いやすさ」で（問診票は）使いやすいと回答し、その理由について記入のあるものを内容別に類型化した。

【結果】

回収された264件のうち、保健師の「育児状況把握のしやすさ」を「有効である」、「問診票の使いやすさ」を「使いやすい」と答えたのは、それぞれ125件（47.3%）と117件（45.1%）であった。

1. 「育児状況把握のしやすさ」の理由は①母親の状況把握に役立つ②子どもの項目から育児状況も把握できる③話のきっかけにできる④育児アンケートを別に作成している⑤参考にするものがある又は事業で作成したから⑥情報源となる⑦問診票というツールの性質に分類された。①②は、問診票に必要な情報を質問項目として含めることで健診での育児状況把握を行うことができるとしており、①に分類された回答が多く、保健師は問診票により母親の育児への姿勢や精神面を問診票から把握することに有効性を感じていると考えられる。また、③では問診票から個別フォローへつなげられることの可能性が示唆されていた。
2. 「問診票の使いやすさ」の理由は①問診票の内容から②継続したフォローに利用できる③使いやすく検討・改訂するから④形式（ファイリング等）による⑤慣れた・支障がないから⑥精度による、に分類された。①②は情報源としての使いやすさであり、③④からは、各市町村で内容・形態ともに工夫を重ねていることが窺えた。

【考察】

乳幼児健診における育児状況の把握については、必要な情報を質問として問診票に含め、母親に記入してもらうことによってプライバシーに踏み込んだ聞きにくい／答えにくい質問に対しても相互に抵抗感が少なくなることや、問診票によって質問内容が統一され問診が標準化されることから、母子の全体像が捉えやすくなるという点で有効であることが示唆された。

問診項目のワーディングや問診票の形状については各自治体で検討されている。これより、ワーディング等によって問診の精度に差を生じさせる可能性があると考えられ、今後精度の高い問診項目の検討が必要だと考える。